
環境情報学専攻

専攻のポリシー
専攻・領域について
履修上の注意事項
履修モデル
GIPS プログラムについて

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

□博士前期課程

所定の年限在学し、以下の知識・能力と所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上で修士論文又は特定課題研究の成果の審査及び最終試験に合格した者に、修士（環境情報学）の学位を授与する。

1. 国際社会での活躍に必要なコミュニケーション能力、幅広い知識及び多面的かつ複合的な視点を身に付けている。
2. 環境分野あるいは情報分野における高度な専門知識・技術と、それを活用して課題を解決する応用力を身に付けている。
3. 環境分野あるいは情報分野における特定の問題に対して、適切な課題設定を行い、高度な専門知識を駆使して問題解決に取り組むことができる実践的な研究能力を身に付けるとともに、高い倫理観を備えている。

□博士後期課程

所定の年限在学し、以下の知識・能力と所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上で博士論文の審査及び最終試験に合格した者に、博士（環境情報学）の学位を授与する。

1. 環境分野あるいは情報分野における多様な事象及び学術研究の成果を総合的に理解することで、実践的な問題解決に資する専門知識及び学際的・国際的視野に立って知の発展に貢献する能力を身に付けるとともに、高い倫理観を備えている。
2. 研究倫理を遵守して環境分野あるいは情報分野における高度な研究を行い、最先端の知識・技術と結びつけて体系的に整理することで、課題解決に向けた新たな価値を創造する研究能力を身に付けている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

□博士前期課程

学位授与の方針に掲げる人材を養成するため、以下のように教育課程を体系的に編成し、実施する。科目の特性に応じて授業の形態・学びの方法を適切に組み合わせ、自ら学び探究し行動するための教育を実践する。

1. 環境あるいは情報に関する諸問題の解決に必要となる幅広い教養を持ち、国際社会で活躍できる人材を育成するため、共通科目群を編成し、講義、演習、実験、実習等を適切に組み合わせる。
2. 研究能力の養成に資する専門基礎科目群を編成するとともに、環境分野あるいは情報分野における高度な専門知識の修得に資する専門基礎科目群・専門科目群を編成し、講義、演習、実験、実習等を適切に組み合わせ、能動的学修を取り入れる。
3. 環境分野あるいは情報分野における特定の課題を深く追求し、高度な研究能力を修得させるため、「文献研究・演習」「特別研究」を配当する。

□博士後期課程

学位授与の方針に掲げる人材を養成するため、以下のように教育課程を体系的に編成し、実施する。

1. 環境あるいは情報に関する諸問題の解決に必要となる高度な学術研究を遂行する研究者として備えるべき見識と素養を身に付けさせるため、学際的・国際的な教養、先端的な研究方法、研究成果を体系化する能力などを獲得させ、併せて研究倫理を徹底するとともに、教育者としての役割及び社会における学識経験者の役割を適切に果たすための素養を培うため、演習や講義等を組み合わせた「講究」を配当する。
2. 環境分野あるいは情報分野における特定の研究主題を設定し、これを深く追求して学位論文に取りまとめさせるため、研究指導教員による研究指導を主とした「特殊研究」を配当する。

1. 専門分野の紹介

環境情報学専攻は、博士前期課程と博士後期課程から成ります。

博士前期課程では、[環境マネジメント] [コミュニケーション環境] [情報システム] [地域・都市環境] の4領域における研究と教育を行なっており、その概要は次のとおりです。

領域	内容
環境マネジメント	地球規模の環境関連諸問題の解決に向けた政策、生態系を含む環境保全に配慮した生産・消費スタイル、持続可能な企業経営や社会構築に寄与するマネジメント、これらの実現に向けた評価や開発、実践などに関わる教育と研究を展開する。
コミュニケーション環境	現代社会におけるマスメディアやウェブを中心とするコミュニケーションや、意思決定、合意形成を良好にするための方法やデザインについて、主に社会学・心理学・認知科学などを含む社会科学的な視点から教育と研究を展開する。
情報システム	利用者の多様なニーズや立場を踏まえて設計された快適かつ安心・安全に利用できる情報システムについて、工学的な観点からの教育と研究を展開する。
地域・都市環境	建築・都市・地域・自然環境における人間を含む生態系の保全や復元、人間社会との調和や再生に着目して、生態学や建築環境学・造園学・都市工学の視点から教育と研究を展開する。

博士後期課程は、[環境] と [情報] の2領域から成り、これらの領域において学際的な見地から高度な研究を深化・展開させ、環境や情報に関する研究者・教育者あるいはリーダーとして活躍し得る人材の育成を目指しています。

2. 教育目標と身に付く素養

本大学院に在学する学生諸君は、研鑽を積みたいと考える学問領域に応じて、いずれかの教員の研究室に所属して、その研究活動に直接関わることで専門家としての素養を身につけていきます。学生と教員の日常的ふれあいを通じた密度の濃い指導が大学院教育の特長です。環境情報学専攻の博士前期課程では、学生の収容定員 124 人に対して 39 人の専任教員が、博士後期課程では、学生の収容定員 18 人に対して 35 人の専任教員が担当しています。

また、プロセスを重視したきめの細かい教育を展開するようにしています。それぞれの大学院生が研究内容を他者に明快に伝えられるようにすることを重視して、博士前期課程では1年次に中間発表会1、2年次に中間発表会2を設け、最後に修士論文発表会に臨めるようにしています。博士後期課程では3年次の中間発表会1、4年次の中間発表会2を経て、5年次の博士論文発表会に臨むようにしています。

学生それぞれが学位論文を纏めていくプロセスの中で、「環境」と「情報」にかかわる先端的な研究活動の一端を体験しつつ、論理力や構成力を培い、表現力を鍛えていきます。在学中に関連する学会での発表を行うことを強く勧めています。このようにして、環境や情報にかかわる具体的な研究を体験していく中で、社会においてどのような仕事に就くにあたって必要とされる能力と専門性を身につけていきます。

博士後期課程では、以上のプロセスをさらに強化し、専門家として社会貢献できる人材の育成を行います。

3. 修了後の進路

本大学院の修了者には、企業や団体などの組織において環境や情報にかかわる問題解決の仕事に取り組んでいける能力を身につけていることが期待され、次のような進路が考えられます。後期課程修了者には、環境・情報の教育・研究に取り組んでいける能力も期待され、大学や研究機関への進路も考えられます。

- シンクタンク・コンサルティング会社の企画・調査・研究部門、あるいは国際部門・システム部門
- 公共的な環境・情報システムの開発・導入・立案を行う国・地方行政機関、国連・ユネスコ、その他国際機関・独立行政法人・NGO
- 設計事務所・住宅産業・建設会社などの環境・情報システム関連の研究開発・調査部門
- 環境・情報システム関連のハード・ソフトメーカー、システムインテグレーションサービス企業、コンテンツ・ビジネス企業
- その他企業の環境・情報システム企画推進部門
- 環境・情報の教育・研究を行う国内外の大学、研究機関など。

履修上の注意事項：環境情報学専攻

博士前期課程／博士後期課程

2026年度 環境情報学研究科

環境情報学専攻

1. 領域の所属

大学院環境情報学研究科においては、下記のいずれか一つの領域に所属する。
所属については、次項に述べる当該領域の指導教員（研究指導教員（M[Ⓔ]）またはD[Ⓔ]）以下略）のいずれか1名に受け入れを認めてもらわなければならない。

専攻名	博士前期課程	博士後期課程
環境情報学	<ul style="list-style-type: none"> ○環境マネジメント ○コミュニケーション環境 ○情報システム ○地域・都市環境 	<ul style="list-style-type: none"> ○環境 ○情報

2. 指導教員（「研究指導教員」及び「研究指導補助教員」）

専攻の各領域を担当する指導教員は、「研究指導教員」と「研究指導補助教員」とからなる。
学生の本学における研究指導は、原則として「研究指導教員」があたり、学位論文作成の指導にあたる。
ただし、テーマによっては、「研究指導補助教員」による指導を受けることが可能である。

3. 修了するために必要な修得単位数

【博士前期課程】

下表の通り、各領域における必修科目として、「文献研究・演習 I～IV」「特別研究 I, II」小計10単位と、授業科目20単位以上を修得し、合計30単位以上を修得すること。

文献研究・演習	4単位
特別研究	6単位
小計	10単位
授業科目	20単位以上
合計	30単位以上

【博士後期課程】

下表の通り、各領域における必修科目として、「講究」8単位と、「研究」16単位を修得し、合計24単位を修得すること。

講究	8単位
研究	16単位
合計	24単位

4. 履修登録方法

履修しようとする授業科目は、指導教員の承認を経て、学期初めに指示された期日までにWEB上にて履修登録をしなければならない。この手続を経ない授業科目は、受講の上、試験に合格しても単位は与えられない。
ただし、先行履修科目についてはWEBによる履修登録を行わず、所定の方法で期日までに教学課へ申請すること。
なお、大学院学則第6条第1項・第2項のただし書きに規定する該当者（早期修了）は教学課に申し出て、履修登録手続きについて指示を受けること。

5. 履修しようとする授業科目の選択方法

(1) 必修授業科目

【博士前期課程】

専攻する領域に関する「文献研究・演習 I」「文献研究・演習 II」「文献研究・演習 III」「文献研究・演習 IV」「特別研究 I」「特別研究 II」(合計 10 単位)を必修とし、文献研究・演習は I～IV を、特別研究は I～II を段階的に履修すること。(「教育課程表」参照)

【博士後期課程】

専攻する領域に関する「講究 I」「講究 II」「特殊研究 I」「特殊研究 II」「特殊研究 III」「特殊研究 IV」(合計 24 単位)を必修とする。(「教育課程表」参照)

(2) 選択授業科目

【博士前期課程】

授業科目 20 単位以上修得するにあたって、当該専攻の科目選択に際しての条件は特はない。

東京都市大学・エディスコワーソワソワ大学国際連携環境融合科学専攻開講科目は、すべて英語で実施となり、受講するためには一定レベル以上の英語力(エディスコワーソワソワ大学との取り決めに基づく受講条件を満たしていること)を必要とするため、事前に指導教員及び教学課に申し出ること。(「教育課程表」参照)

(3) 他研究科・他大学院の科目の履修と単位認定について

【博士前期課程】

他の研究科、及び他の大学院における科目は、それぞれをあわせて最大 10 単位までを、指導教員の判断により修了要件に算入できる。なお、これらの手続きは以下の通りである。(大学院学則第 16 条(他の科目の履修)および第 16 条の 2(既修得単位)では、「15 単位を越えない範囲で」と記載があるが、環境情報学研究科では、最大 10 単位までとする。)

①他研究科の科目を履修

他の研究科における科目を履修したい場合は、事前に指導教員及び当該開講科目担当教員に申し出て、了解を得た上で、「科目履修届出書」によって履修申告することができる。(ただし「インターンシップ」および各専攻の「演習・実験」科目は除く。)

②東京理工系 4 大学大学院単位互換により他大学院の科目を履修

東京理工系 4 大学の交流協定に基づき、工学院大学大学院、芝浦工業大学大学院、東京電機大学大学院で開講される科目のうち、単位互換可能科目を教学課にて確認の上、指導教員に申し出て了解を得た上で、当該大学院の定める履修登録手続きを行う。

③「神奈川県内の大学間における学術交流に関する覚書」に基づいた、他大学院の科目を履修

「神奈川県内の大学間における学術交流に関する覚書」に基づき、他大学で開講される科目のうち、単位互換可能科目を教学課にて確認の上、指導教員に申し出て了解を得た上で、当該大学院の定める履修登録手続きを行う。

④科目等履修生により他大学院の科目を履修

科目等履修生により、他の大学院の科目を履修し修得した場合は、当該科目の「成績証明書」または「単位修得証明書(成績評価が記載されたもの)」とともに指導教員に報告するものとする。なお、単位認定を希望する者は、指導教員を通じて教務委員会に申請を行う。

(4) その他

【博士前期課程】

指導教員が必要と認めた場合、その指示に従って学部の授業科目を履修できるものとする。

ただし、合格しても、修了に必要な単位には加算しない。

【博士後期課程】

指導教員が必要と認めた場合に、博士前期課程の授業科目を指定して履修できる。

ただし、合格しても、修了に必要な単位には加算しない。

6. 科目試験

【博士前期課程】

博士前期課程において、授業科目の試験は定期的試験として前・後期末に行う。試験に合格した者には、学則に定める単位を与える。ただし、平常の成績をもって試験の成績に代えることがある。

7. 成績

(1) 成績の発表

- ①成績は8月下旬（クォーター開講を含む前期配当科目）と3月下旬（クォーター開講を含む後期配当科目）の2回発表する。
- ②修了要件を満たして学位授与資格を認定された者は、3月もしくは9月に本学内に掲示する。

(2) 成績の評価

成績の評価を、秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下）の5段階に分け、秀・優・良・可を合格とする。

(3) 成績順位の算定方法

成績順位は、f-GPA（ファンクショナル・グレード・ポイント・アベレージ）方式により算定される。計算式は以下の通りで、算出された評定値の大きい順に順位がつけられる。

$$\frac{\text{履修した各科目のGP} \times \text{単位数の合計}}{\text{履修単位数}} = \text{評定値}$$

※GP = (科目の得点 - 50) / 10 ただし、科目の得点が60点未満の場合、GPは0とする。

- (1) 評価値算出対象科目は「修了要件対象科目」とする（修了要件非加算科目は対象外）。
- (2) 評定値算出には不合格科目も対象とする。
- (3) 不合格科目を再履修した場合は、分母の履修単位数の変更はせずに、分子のGPのみ最新評価結果に変更して算出する。
- (4) 前期終了時に評定値を算出する場合、当該年度に履修中の通年科目については、分母（履修単位数）に含めない。
- (5) 評定値が同じ場合には、分子が大きいものを上位とする。分子も同じ場合には同順とする。
- (6) 評価が「認定」の科目は、評定値算出の対象にならない。

8. 学位論文に関する届け出

【博士前期課程】

博士前期課程においては、1年以上在学し、所定の用紙により学位論文の主題とその研究計画書を指導教員に提出しなければならない。

なお、大学院学則第6条第1項・第2項のただし書きに規定する該当者（早期修了）は教学課に申し出て、履修登録手続きについて指示を受けること。

【博士後期課程】

博士後期課程においては、2年以上在学し、所定の用紙により学位論文の主題とその研究計画書を指導教員に提出しなければならない。

なお、大学院学則第6条第1項・第2項のただし書きに規定する該当者（早期修了）は教学課に申し出て、履修登録手続きについて指示を受けること。

9. 学位論文の提出

修士論文及び博士論文は、審査委員会の委員人数分を作成し、所定の期日までに指導教員を通じて学長に提出しなければならない。

なお、英文による学位論文作成の場合は和文の概要を一部添付すること。

10. 最終試験

最終試験は学位論文を中心として、これに関連ある科目ならびに外国語について行う。

外国語は、原則として一種類を課する。

試験は、口答または筆答あるいは口答及び筆答の方法によって行う。

11. 学位の授与

【博士前期課程】

博士前期課程は、本大学院研究科の博士前期課程に所定の期間在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導等を受けた上、学位論文を提出し、その審査及び最終試験に合格したことをもって修了したものとする。

博士前期課程を修了した者には、修士（環境情報学）の学位を授与する。

【博士後期課程】

博士後期課程は、本大学院研究科の博士後期課程に所定の期間在学し、24単位以上を修得し、かつ必要な研究指導等を受けた上、学位論文を提出し、本大学院の行う博士論文の審査及び最終試験に合格した者には、博士（環境情報学）の学位を授与する。

12. 博士論文の公表方法

【博士後期課程】

平成25年4月1日より博士論文は、インターネットによる公表が義務付けられているため、博士論文の電子データを学位授与式までに教学課へ提出すること。ただし、やむを得ない事由があり、インターネットによる公表が困難な場合には、事前に教学課へ相談の上、指示を受けること。

早期修了要件**1. 博士前期課程早期修了要件**

大学院学則第6条第1項に規定する博士前期課程の早期修了要件には以下の条件を満たすことを要する。

- (1) 入学時に条件1及び条件2を満たすこと。

条件1：大学院学則第16条の2による単位認定により、10単位修得していること。

条件2：学会での口頭発表を1回以上行っていること。

条件3：1年次終了時あるいは1年半終了時に修士論文を提出できる見込みであることを専攻が認定していること。

- (2) 修士論文提出時に、査読付き筆頭論文が1編以上あること。この論文は、博士後期課程において、学位認定に要求される（主として自らが実施した研究に基づいて自らが執筆した）論文と同等のレベルであることを要する。

2. 博士後期課程早期修了要件

大学院学則第6条第1項及び第2項に規定する博士後期課程の早期修了には以下の条件を満たすことを要する。

条件1：主として自らが実施した研究に基づき、博士論文の中核となる主題について執筆した論文（原則として査読付き筆頭）が2編以上あること。

条件2：1編以上は入学後に掲載された論文であること。

3. 学内発表会の省略

上記修了要件に該当する場合は、中間発表会1，中間発表会2を省略することができる。

4. 必修科目の履修順序

必修科目は、段階的に履修することとなっているが、上記修了要件に該当する場合は、教学部教学課に申し出て指示を受けること。

履修モデル：環境情報学専攻

博士前期課程

2026年度 環境情報学研究科

環境情報学専攻

種類	科目名	単位	環境情報学専攻 各領域			
			環境マネジメント	コミュニケーション環境	情報システム	地域・都市環境
必修	文献研究・演習 I	1	○	○	○	○
	文献研究・演習 II	1	○	○	○	○
	文献研究・演習 III	1	○	○	○	○
	文献研究・演習 IV	1	○	○	○	○
	特別研究 I	3	○	○	○	○
	特別研究 II	3	○	○	○	○
語学	Academic Presentations	1	○	○	○	○
	Academic Paper Writing	1	○	○	○	○
	Advanced Comprehension Skills	1	○	○	○	○
専門基礎科目	都市環境モデリング	2	○		○	○
	Environmental and Social Systems	2	○			○
	メディア技術と社会	2		○	○	
	社会調査とデータ分析	2	○	○	○	
	都市のアクションリサーチ	2	○	○		
	地球規模問題解決型イノベーション論	2	○			○
専門科目	環境影響評価学	2	○			
	環境リスク社会論	2	○			
	環境経営科学	2	○			
	環境法・政策学	2	○			
	環境コミュニケーション論	2	○			
	情報社会論	2		○		
	情報デザイン論	2		○		
	文化とコミュニケーション	2		○		
	現代社会のマスメディア	2		○		
	認知科学特論	2		○		
	情報システムとビジネス	2			○	
	メディア情報処理	2			○	
	情報ネットワークとセキュリティ	2			○	
	知能科学	2			○	
	連続系と離散系のモデリング	2			○	
	自然共生システム	2				○
	環境保全学	2				○
	地域環境計画論	2				○
環境建築学	2				○	
特別科目	キャリアデザイン	1	○	○	○	○
	インターンシップ	2				
	特別講義 I	2				
	特別講義 II	2				
	特別セミナーI	1				
	特別セミナーII	1				

凡例 ○=強く履修を奨める科目

地球規模の環境・社会問題の解決に貢献する問題解決型イノベーション人材育成プログラム： Global Scale Innovator Program for Sustainable Society(GIPS)について

1. 地球規模の環境・社会問題の解決に貢献する問題解決型イノベーション人材育成プログラム

：Global Scale Innovator Program for Sustainable Society (GIPS) について

本専攻では、環境情報学を基礎として問題発見力を高めるための知識と地域と連携して問題を解決する力を身につけた、地球規模の環境・社会問題の解決に貢献するイノベーション人材を育成する「地球規模の環境・社会問題の解決に貢献する問題解決型イノベーション人材育成プログラム」(GIPS)を実施している。このプログラムは、これまでの既存の環境情報学の基礎科目やPBL(Problem based learning)、グローバル科目と共に、本養成人材に必要なコアスキルを習得するための科目を設置し、それらの履修を通じて、洞察力、研究実践力や問題解決型イノベーション人材の基盤となるスキルを修得すると共に、環境マネジメント、コミュニケーション環境、情報システム、地域・都市環境などの専門科目の履修を通じて、問題発見力を高めるための知識を涵養し、インターンシップや産官学連携に基づく地域課題をベースとした研究推進を通じて社会実践力を養い、地球規模の環境・社会問題の解決に貢献する問題解決型イノベーション人材の育成を行うことを目的としている。本プログラムは2020年度より日本政府(文部科学省)の『国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム』に採択され開始されたが、「2023年度『国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム』」にも採択され、継続が決定された。2024年度から2026年度で合計36人(博士前期課程及び博士後期課程)の外国人留学生の受け入れを目標として、日本人学生との相乗効果を期待した本学のグローバル化を強化する。日本政府(文部科学省)は、日本政府奨学金により、東京都市大学大学院環境情報学研究科において、環境情報学に関する指導を受ける外国人留学生(博士前期課程3名、博士後期課程3名)を募集している。

2. 本プログラムの参加方法

参加希望の学生は、所定の参加申請書を別途指示された期日までに教学課に提出しなければならない。

3. 本プログラムの修了要件

■博士前期課程、

及び博士後期課程（博士後期課程から当該プログラムに参加の場合）

項 目	博士前期課程	博士後期課程
課程修了要件を満たすこと	必須	必須
本プログラムが指定する科目（4単位分）を修得すること	必須	必須
本プログラムが指定するプログラムのうち、いずれか1つに参加すること <ul style="list-style-type: none"> ・ AOFUA 短期留学(プログラム A) ・ AOFUA サマーキャンプ (プログラム C) ・ インターンシップ 日本人は海外インターンシップを対象とする 留学生は海外または国内のいずれも可（対象）とする ・ 国際学会議での発表 日本国内で開催されるものを含む 筆頭として英語で発表（口頭もしくはポスター）すること 証憑として発表報告書（A4 1枚・形式自由）と発表アブストラクトを 指導教員に提出すること（学会議開催団体からの証明書は不要） 	必須 ※いずれか 1つ	必須 ※いずれか 1つ

■博士後期課程

（本学博士前期課程から内部進学し、継続して当該プログラムに参加の場合）

項 目	本学博士前期課程から継続で 参加の学生
課程修了要件を満たすこと	必須
学会議（国内外）での発表 2件 筆頭として発表すること（口頭もしくはポスター） 学会議は日本学会議協力学術研究団体が主催する定期的に行われているもの を対象とする 証憑として発表報告書（A4 1枚・形式自由）と発表アブストラクトを 指導教員に提出すること	必須
学内での報告を実施 指導教員およびGIPS 担当教員1名以上に対しプレゼンテーションを行い、 当該教員から講評を受ける	必須
本プログラムが指定するプログラムのうち、いずれか1つに参加すること <ul style="list-style-type: none"> ・ AOFUA サマーキャンプ (プログラム C) ・ インターンシップ 日本人は海外インターンシップを対象とする 留学生は海外または国内のいずれも可（対象）とする ・ 国際学会議での発表 日本国内で開催されるものを含む 筆頭として英語で発表（口頭もしくはポスター）すること 証憑として発表報告書（A4 1枚・形式自由）と発表アブストラクトを 指導教員に提出すること（学会議開催団体からの証明書は不要） 必須となっている学会議の発表の流用は不可とする 	必須 ※いずれか1つ

